

目的 前報において、ブラウスとスカートを着装した際のイメージは評価、活動、力量性の因子にはさそり感を加えた4因子であらわされることを明らかにした。今回はブラウス・スカートを実際に着装した際の評価の因子である個性に合致した配色調和について検討したいと考えた。そのためには実物のイメージとそのまゝ表現する必要があり、カラーシミュレーターを用いて、これらの要素を加味した調和に属する配色色空間を構成し、被服選定の際の資料とする。

方法 個性が異なる3名をモデルとし、それぞれシャツブラウス・タイトスカートを、その中の1名には形態の影響をしらべる必要上、ボータイブラウスを着装させた。試料は色に片寄りが無いように13色を選定し、2色の組み合わせおよびその上下の配色を反対にした計156通りをカラーシミュレーターを用いスライドを作製した。総数は624枚である。配色調和に属連の深い用語として、“調和している”、“好きな”、“人物をひきたてている”を用いてSD法によって5段階評価し、Eij型数量化法により配色空間布置を求めた。

結果 “好きな”、“人物をひきたてている”の用語は“調和している”と同じ解釈をしている。配色空間布置より白と有彩色との配色は調和し、浅い紫と他の色との配色は常に調和しないものと判断された。こいあか、あまいきみのオレンジ、中間のグレイ、ピンクと他の色との配色調和は個性によって左右されるが衿の形態の相異は本実験では配色調和にあまり影響を与えない。また白、黒、中間のグレイはブラウス・スカートの上下変換によってイメージ変化が生ずることが明らかとなった。